

テキスト マタイによる福音書 5章9節
子どもと親のカテキズム 問91

〈平和主日〉

弊誌は、創刊以来ほとんど一貫して通常のカリキュラムの中に、二つの主日を特別な記念の主日として加えて編んで参りました。一つは、2月11日の信教の自由を守る記念の日の前後、もう一つは、8月15日前後の敗戦記念日を覚える平和主日です。

しかし、筆者の実践において当該主日の礼拝説教においてそのようにしたことは、ほとんどありません。淡々と当日与えられたテキストに即して講解説教を重ねます。それは、およそ説教が神の言葉として語られ、聴かれ生きられるべき教会の現実において、今日の政治状況と離れたところで説教の言葉が編まれることはあり得ないと思うからです。与えられたテキストを説き明かすとき、信教の自由や戦争や平和の課題に言及せざるを得ない箇所はたくさんあります。ただし、2016年の政治状況における日本にある教会にとっては、まさに今このときに主題説教を重ねて教会の足腰をあらためて鍛え、整えなければならないという緊迫感もあるように思います。

しかし当然、子どもたち（幼児・小学生）のための説教においては、状況はまったく違ってくるだろうと思います。彼らの世界、現場は、学校や家庭、友達との関係がそのほとんどです。しかし、それでもその小さな世界が大きな世界の営みのなかで守られていることについて、彼らの視線を広げることも、私どもの重要な課題だと思えます。

これは、昨年夏以降の筆者の小さな経験です。小会決議にもとづき教会のすぐ近くの大通りの交差点で月に一度の礼拝式後、教会員（有志）と共に「スタンディング」を継続しています。また、「戦争法案」が国会審議されているときには、私たちの教会も主催者の一員となった地域の野外集会やデモパレードにも参加しました。これらにおいて、当初予想していなかったことが起こりました。小学生の契約の子たちが親に連れられてではありま

すが、しかし、自発的に参加する姿を見たのです。ハッとさせられました。つまり、親からの情報もあるでしょうが、子どもたちの耳にも、新聞やテレビなどで、このまま法律が通ると、将来自分たちも戦争に巻き込まれる、この暮らしが壊されてしまうという深いところにおいて危機感が植え付けられていることを見たからです。その意味で、高学年の子らにとっては、社会科などで習っていることもあり、大人が思っている以上に深く考えていることを思わせられました（もとより、子どもたちの参加については、親の責任のもとになされることで、教会の呼びかけではありません）。

〈平和とは何か〉

そもそも聖書の言う平和とは何でしょうか。使徒パウロはローマの信徒への手紙において、「平和の源である神」(15:33、16:20)と言いました。平和とは神に源泉を持つということでしょう。また、神から与えられるものだということでもありましょう。父と子と聖霊の交わりにおいて一つの存在でいらっしゃる神ご自身のお姿にそれを見ることが出来ます。神ご自身のご存在そのものが平和なのです。そして、神は、私たちを「この平和にあずからせるために」「招かれて一つの体」つまり教会とされた（コロサイ3:15）わけです。まさに、感謝あるのみです。

〈平和教育〉

教会の教育は、信仰の教育です。カテキズム(教理)教育こそ、私たちの務めであり使命です。そのことによって主イエス・キリストを愛し、愛されている恵みの内に、信仰告白へと導かれることを願っています。ただし、信仰告白はゴールではありません。信仰告白を経て、聖餐の食卓を整える奉仕者になることつまり教会とその形成に仕える者となってもらうことにあります。しかもそれは教会共同体内という、いわば狭い領域に限定したものではありません。これは、教会の使命そのものですが、教会を通して世に仕える者として

育ってもらふことにあります。これこそ、私どもの教育の根底にある願いであり、目標です。つまり、ディアコニア（愛の業）に生きる生涯を築いてもらいたいのです。そのために、豊かな知識や技術を身に着け、感受性や知性を養ってもらいたいのです。学校（一般）教育の価値を、私どもは積極的に認めているのはそのためだと思います。

もとより、そこで受ける知識や能力は常にカテキズム教育によってその意味や目標を明瞭にさせてあげなければなりません。神の栄光のために、神さまの子どもとして、神さまと共に歩むための学びであり遊びであるということです。

さて、教会教育の目標について、ここに詳細に記す暇はありません。しかしそれを「平和教育」という言葉であらわすことは、的外れではないと思います。「平和教育」とは、キリスト教主義学校をはじめ私学の中でも大切にされているように思います。それは、人と人が争わず、互いの生命や人格、人権を尊重し合う教育です。そのために異文化を理解し、共生、共感できるように知識を与え、考えさせ、実践を促すことだと思います。そうであれば、まさに教会の教育こそ、平和教育の王道であり、その場であると言えるはずです。本日のテキストは、「平和を実現する人びとは、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5:9)です。まさに私たちこそ、神の子とされた者たちの集いであり、平和を造り出すために救われた者たちだからです。「キリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を減ぼされました」(エフェソ2:16参照)。キリストの教会は、平和を実現する方法をも、神の御子イエスさまに伝授されています。愛すること、伝道することです。

〈カテキズムと平和〉

聖書の言う救いとは、罪からの救いであり、その結果として実現するものこそ、「神の平和」に他なりません。その意味で、旧新を貫く聖書の最大の主題とは、「神の平和」(ヘブライ語：シャローム)であると言っても決して過言ではありません。神と人との間になんのわだかまりもない状態こ

そ、平和です。積極的に言えば、愛し愛されるいのちの交わりの喜びのうちに平安に満たされた関係です。

実は、「子どもカテキズム」にも「子どもと親のカテキズム」にも「平和」という言葉がありません。これは、小さくない欠陥と言えるかもしれません。しかし、たとえば冒頭の「神の子どもとして、神と共に歩む」(問1)「神を知り・仕えて歩む」(問2)「教会の生活・世界に送り出されて神さまに仕えて歩む」(問4)「神、人を愛し・神さまが造られたものを大切に」(問5)において、神の平和に生きる者の幸いとその使命が書き込まれていることに留意くだされば幸いです。問91では、教会が御言葉と聖霊に支配されるとき、教会の平和が確立されること。それは、伝道とディアコニア（愛の働き）によって上げられることが示されています。

〈平和の橋頭堡である教会〉

使徒パウロは、「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい」(コロサイ3:15)と言いました。キリストがその贖いの御業を通して獲得された神の平和こそ、真の平和なのです。そして、その平和に与らせるためにキリストはご自身の体である教会へと、洗礼と聖餐によって結び合わせてくださいました。ですから、平和造りとは、教会形成に直結し、そのための伝道こそ、最高の武器、手段になるのです。神の国の最高のあらわれである教会は、この地に設置された平和を造り出す橋頭堡です。したがって、教会員の一人一人が平和に満たされていることが要です。礼拝の充実はそのためです。そして、その平和は、現実にこの世界においてもたらされるべきものです。その手段は福音伝道です。そして、その福音伝道は、具体的なものでなければなりません。そこに、政治的な行動や実践が必然的にもたらされます。

本主日、戦前の日本の教会のおそるべき罪を、あらためて見つめ直し、悔い改めを深める日としましょう。教会の再生は、真の悔い改めからのみなされるからです。(相馬伸郎)

テキスト

マタイによる福音書 5章9節

子どもと親のカテキズム 問91

(単元のねらい)

敗戦記念日は、日本キリスト改革派教会にとってまさに常に立ち返るべき、創立の原点とも言うべき日です。かつて私たちが属した日本基督教団の教案誌「教師の友」は、戦前戦中、教会に通う子どもたちに、「神の子どもたち」であることを告げず、むしろ「天皇の赤子」であることを強調しました。キリストの御名において戦地へと駆り立てるお話が掲載されていました。戦争に抗う闘いで敗北したというより、戦争推進機関となって戦争に加担した罪を犯しました。キリストを知らない人びとの罪責とは、比べられないほど重いと云わざるを得ません。この罪の悔い改めを深める営みを怠るなら、私どもの宣教も教会形成も真実なものとなりえません。政府の過ちによって戦争できる国とされてしまった今この時、もしも声を出して抗わなければ、既にかつての罪を犯し始めていることにならないでしょうか。私たちがおそるべき罪は、しかし、キリストの血で贖われました。もし、私たちが主イエスの犠牲に感謝するなら、第一に、子どもたちに平和の福音を教えること、第二に、子どもたちを守るためにも政府に警告し、地域社会で声を挙げる必要があるのではないでしょうか。今回の展開例は、「説教完全原稿」ではなく、共に考える、ヒントを二つ提供させていただきます。

平和を実現する神の子どもたち**1. 平和カテキズム**

子どもと教師との対話形式の「平和カテキズム」を作ってみました。自由に改変し、なによりもご自分で作ってみるとすばらしいと思います。この問答は、聖書の中心主題が平和の実現にあること、そのために神がイエス・キリストによって私たちと和解してくださったこと、ご自身の教会に招き入れられることによって平和を享受できること、主の平和こそ互いに愛し合い、憎しみ殺し合わない世界へと変えて行く力があること、その実践を励ますことが意図されています。

問 まことの平和はどこにありますか。

答 それは、父なる神さまと子なる神さまと聖霊なる神さまとが愛と信頼によって一つに結ばれた交わりの中にあります。

問 それなら、私たちの世界の中にはないのですか。

答 いいえ、神さまは私たちをこの平和の中に生きるようにお造りくださいました。神さまを

礼拝することで与えてくださいます。

問 それなら、神さまを礼拝するところに平和があるのですか。

答 はい、天のお父さまは、罪人の私たちのために救い主イエスさまを十字架にかけて罰することによって罪を赦し、恐れることなく礼拝できるようにしてくださいました。

問 それなら、平和とは神さまとの正しく、よい関係のことですね。

答 はい、私たちは今、イエスさまを信じて、神さまの子どもとされています。

問 私たちは何のために、神さまの子どもとされたのですか。

答 平和を実現するためだとイエスさまは教えてくださいました。

問 どのようにして平和は実現できるのですか。

答 神さまと人を愛し、教会生活に励むことによってです。

問 それなら、平和とは教会によって実現できるのですか。

答 はい、神さまは、イエスさまを主と告白する教会を通して、神の平和を世界に造り出してください。イエスさまが再び来られるとき、平和は完成されます。

問 それなら、礼拝だけしていればよいのですか。

答 いいえ、平和の主イエスさまの命令を破る力には抵抗し、争いを起こさないように声を挙げ、行動することが求められます。

2. 説教展開例

今日の日曜日は、平和主日として子どもの教会の礼拝式を捧げています。昨日や一昨日、そして今晚もテレビでは、70年前の戦争のことがとりあげられます。観ましたか。

実は、とても悲しく悔しいことですが、70年前のことが、今、繰り返され始めています。今の政府は、日本国憲法をまったく否定してしまう新しい憲法をつくってしまおうとしています。ちょうど去年の夏、戦争することを可能にする法律が制定されてしまいました。

戦争は、人間が犯し得る最大の罪であり、犯罪です。何故なら、人と人が殺し合うからです。殺されるのは、まさききに弱い立場の人です。偉い人たちは戦争の現場に行きません。これは、先生も信じられないようなことなのです。実は、戦争によってお金がもうかるとか、偉くなれるとか、気持ちが晴れるとか、そのような恐ろしいことを本気で考える人たちがいます。今の戦争や争いは、そんな恐ろしい人びとが、陰にいますと言われています。くわしいことは、学校や自分で勉強してください。

今朝は、そのような私たちの世界と神さまの御心について学びましょう。今朝の暗唱聖句は、「平和を実現する人びとは、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」です。イエスさまがこう教えてくださった時、世界はローマ帝国が、圧倒的な軍隊をもって人びとを支配していました。皆は、「ローマの軍隊の力によって平和なんだ」「ローマの平和、ばんざい」と言っていました。でも、それは、イエスさまがおっしゃった「平和」とは、まったく違っているものでした。「安全保障」と

いう言葉を聞いたことがありますか。ローマの平和は、「自分たちの軍隊は誰にも負けないぞ」と見せつけて、人びとや国々を押さえつけている状態です。なぜ、そうなるのでしょうか。それは、お金や権力を手にしたいからです。威張りたいからです。

ほんとうの平和とは何でしょうか。それは、第一に、神さまと僕たち私たちとの関係のこと、正しい関係のことです。神さまを「お父さま」と呼んで、神さまから「愛するわたしの息子よ」と呼ばれる、心になんのわだかまりもなく、喜びでいっぱい嬉しい親子の関係です。

神さまの前にこのような関係が結ばれていないと、人間の心の中には、不安がもくもくとわきあがります。いわば、神さまと戦争しているようなものだからです。そのままでは、人間は人間の敵ともなっていて、争いあい、不幸のままです。カインは弟アベルを妬んで殺しました（創世記4章）。

天のお父さまは、そんな恐ろしい罪人の僕たち私たちのために、まるで「ごめんね」と謝るようにして、イエスさまを与えてくださいました。イエスさまを十字架につけて、「イエスさまを信じて、罪を赦されなさい。わたしの平和を受けなさい！」と手を差し伸べてくださったのです。僕たち私たちは、もう一度、「はい、信じます。心から、感謝します」と返事をしましょう。

今、この瞬間、神さまの平和が僕たち私たちに実現しています。すると、どうでしょう。僕たち私たちは、「仲良くしたい、殺されるのも殺すのも絶対にいやだ。だめだ。平和を造りたい」と言う強い思いがわいて来ませんか。

2000年前、こうしてイエスさまを信じた人たちは教会をつくりました。神さまの平和が地上に始まったのです。僕たち私たちは神さまの子どもとされました。教会をここにみんなで建てあげ、この国や世界中に争い、殺し合いを止めさせるように祈りましょう。心の中にある、人を憎む思いを神さまに告白して、赦していただきましょう。

(相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 5章9節

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

マタイによるふくいんしょ5:9をよみましょう

1. イエスさまのこのおしえは、だれにしたものですか。

2. イエスさまは「へいわをじつげんするひとびと」のことをなんであるとおっしゃいましたか。

3. 「へいわをじつげんするひとびと」はなんとよばれますか。

4. 「へいわをじつげんする」とは、ぐたいてきにどんなことだとおもいますか。

5. 「へいわをじつげんする」ために、あなたがじっさいできることや、やってみたいことはどんなことですか。

マタイによる福音書5:9を読みましょう

1. イエスさまのこの教えは、誰にしたものですか。

2. イエスさまは「平和を実現する人びと」のことをなんとおっしゃいましたか。

3. 「平和を実現する人びと」は、なんと呼ばれますか。

4. 「平和」とはどういうことだと考えますか。

5. あなたが「平和を実現する」ためにできること、やってみたいことはどんなことですか。